

# 美術館の開口部から見える風景

安田研究室 0220546 廣野雄太

1. 序 美術館は作品の鑑賞を目的とした場であるが、ロビーやレストランでは積極的に外部の風景を見せている場合が多い。開口部から見える風景は美術館での空間体験における魅力要素の一つであると考えられる。そこで本研究では、近年の美術館建築<sup>\*注</sup>を対象とし、開口部から見える風景の現れ方を分析することで、美術館の場面構成手法の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 外部風景の分類 開口部から見える外部風景の要素を抽出し、開口部からの距離に、敷地境界内において認識される部分(近景)、敷地外において個体もしくは群として認識される部分(中近景)、シルエットとして認識される部分(遠景)に分類した(表1)。風景の現れ方には、館内の視点の高さの違いによる特徴がみられた。低視点からは、主に「近景」もしくは「近景+中近景」の風景が見られ、高視点からは「近景+遠景」の風景が見られた。そこで、開口部からの距離と敷地外の要素の組合せから7つの風景パタンを得た(表2)。パタンAは近景のみの風景であり、敷地外の要素を持たず中庭が見えるパタンである。パタンBは近景と中近景が見える風景である。敷地に隣接する要素に視線が収束するもので、その要素としてB1では建物(群)、B2では樹木群である。パタンCは中近景を経て遠景まで見える風景である。中近景から遠景においてC1は水面が広がり、C2は公園等のオープンスペースが広がる風景である。C3は中近景で建物(群)が見れ街を俯瞰する風景であり、C4は 樹木群から遠景の山までが連続的に見える自然風景である。

3. 開口部の内部空間 開口部からの風景の見え方は内部空間の様相によって印象が異なると考えられる。そこで、内部空間の平面形状と動線方向に対する開口部(ガラス面)の配置を分析した結果、6つの構図が得られた(表3)。構図エのように動線方向に対して奥行があり(以下縦長とする)、側面に開口が設けられるものが最も多く、構図カのように正方形に近い平面に多方向の開口が連続的に設けられるものも多くみられた。

4. 開口部から見える風景 風景パタンと内部空間の構図パタンでマトリクスを作成し、多く見られた組合せから11の類型を得た(表4)。I、IIは中庭を見る類型であ

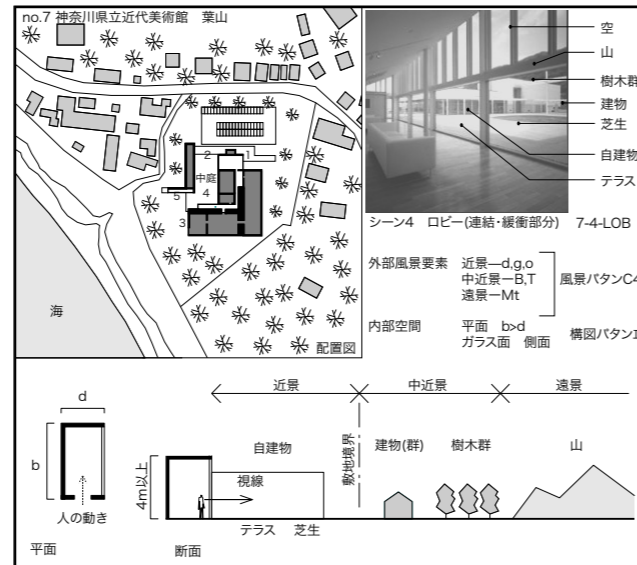


図1 分析例

表1 風景の要素

要素	近景				中近景			遠景		
	植栽t	自建物o	作品a	塀、圍L/f	樹木群T	建物B	山Mt			
立体要素	111	80	26	17	89	34	60			
平面要素	テラスd	庭g	水w		道路R	公園P	水Wt			
	103	68	31		30	17	12			

表2 風景パタン

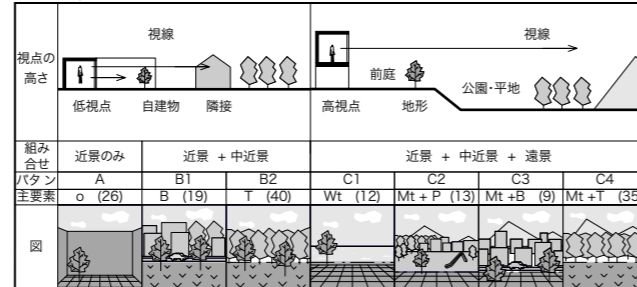


表3 平面形状と視線方向

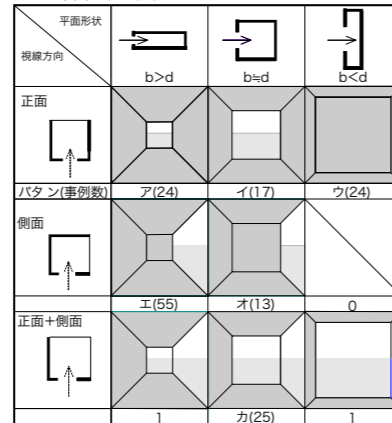


表4 対象作品リスト

no.	名称	no.	名称	no.	名称
1	兵庫県美術館	5	茨城県立美術館	9	新潟市美術館
2	山形県美術館	6	徳島県立美術館	10	富山県立美術館
3	徳島県立美術館	7	静岡県立美術館	11	富山県立美術館
4	徳島県立美術館	8	静岡県立美術館	12	富山県立美術館
5	徳島県立美術館	9	静岡県立美術館	13	富山県立美術館
6	徳島県立美術館	10	静岡県立美術館	14	富山県立美術館
7	徳島県立美術館	11	静岡県立美術館	15	富山県立美術館
8	徳島県立美術館	12	静岡県立美術館	16	富山県立美術館
9	徳島県立美術館	13	静岡県立美術館	17	富山県立美術館
10	徳島県立美術館	14	静岡県立美術館	18	富山県立美術館
11	徳島県立美術館	15	静岡県立美術館	19	富山県立美術館
12	徳島県立美術館	16	静岡県立美術館	20	富山県立美術館
13	徳島県立美術館	17	静岡県立美術館	21	富山県立美術館
14	徳島県立美術館	18	静岡県立美術館	22	富山県立美術館
15	徳島県立美術館	19	静岡県立美術館	23	富山県立美術館
16	徳島県立美術館	20	静岡県立美術館	24	富山県立美術館
17	徳島県立美術館	21	静岡県立美術館	25	富山県立美術館
18	徳島県立美術館	22	静岡県立美術館		
19	徳島県立美術館	23	静岡県立美術館		
20	徳島県立美術館	24	静岡県立美術館		
21	徳島県立美術館	25	静岡県立美術館		
22	徳島県立美術館				
23	徳島県立美術館				
24	徳島県立美術館				
25	徳島県立美術館				

り、Iはエントランスホールの正面に開口部が設けられ、内部空間を通して中庭を見るものも多く見られる。IIは開口部が縦長空間の側面に設けられ、中庭での屋外展示を見せているものが多い。III-VIは中近景までの風景を見る類型である。IIIは隣接する建物を風景の主要素とし、縦長空間の側面に開口部が設けられたエントランスホールで多く見られる。IV-VIは樹木群を主要素とする風景を見るものである。IVは縦長空間の正面開口部から見るもので、内部空間の奥行が強調されるものである。Vは滞留性の高い空間の正面に開口部が設けられるもので、VIは連結空間の側面に横長の開口部が設けられるものである。VII-XIは遠景までの風景を見る類型である。VIIは水の風景を横長空間の正面から見ることで水面の広がり強調されるものであり、滞留性の高い空間が多い。VIIIは中近景にオープンスペースがある風景を見るものである。これは低視点からでも遠景まで見えるものであり、正方形に近い平面空間に複数のガラス面が連続的に設けられることで、内部空間と外部空間が視覚的に連結されるものと、公園に面して吹抜があるものも多く見られ、風景の広がり感が強調されるものである。またIXは高視点から都市を俯瞰するものであり、開口が上層部の

表4 開口部空間の構成

開口部形状	風景パタン		A		B1		B2		C1		C2		C3		C4	
	風景パタン	構図パタン														
正面	b>d	ア	7-2 ENT 37-2 ENT 43-1 ENT 47-3 EXB	7-1 ENT 22-1 ENT 45-2 COR	13-2 ENT 32-1 ENT 34-1 ENT 37-1 ENT 24-3 COR 37-4 LOB 19-3 RES 26-3 RES	49-2 RES	34-6 LOB	16-1 ENT	空間用途略号 ENT:エントランス EXB:展示 LOB:ロビー RES:レストラン COR:廊下	16-1 ENT	13-1 ENT	27-2 LOB 42-1 LOB	34-5 EXB 14-2 LOB 34-2 LOB 40-2 LOB 47-4 LOB 34-4 RES	13-1 ENT 24-1 ENT 36-1 ENT 32-2 ENT 32-3 EXB 7-4 LOB 20-2 LOB 25-3 LOB	27-2 LOB 42-1 LOB 15-3 COR 20-4 COR 28-1 COR 38-2 COR 13-4 RES 15-5 RES 20-6 RES	
		イ	4-2 ENT 5-2 ENT 15-2 ENT 17-2 ENT 26-1 ENT 5-2 EXB	4-1 ENT 10-3 EXB	43-2 ENT 11-2 EXB 44-3 EXB 36-2 LOB 44-4 RES 36-4 RES 38-5 RES 39-1 RES	7-3 EXB	1-4 EXB	13-1 ENT	38-1 ENT 15-4 EXB 20-3 EXB 9-1 RES							
側面	b=d	ウ	22-2 ENT 38-3 LOB 42-2 LOB 34-3 RES	21-1 ENT	18-1 ENT 16-2 LOB 41-1 LOB 44-2 LOB 16-3 RES 36-4 RES 38-5 RES 39-1 RES	49-1 EXB 3-1 LOB 12-1 COR 3-3 RES 5-3 RES 12-2 RES	45-1 ENT	40-2 LOB	5-3 RES	31-2 EXB 1-3 COR 22-4 COR 22-3 LOB 1-5 RES	34-5 EXB 14-2 LOB 34-2 LOB 40-2 LOB 47-4 LOB 34-4 RES	15-1 ENT 20-1 ENT 23-1 ENT 25-2 ENT 38-4 RES	27-2 LOB 42-1 LOB 15-3 COR 20-4 COR 28-1 COR 38-2 COR 13-4 RES 15-5 RES 20-6 RES			
		エ	16-1 ENT 40-1 ENT 1-2 EXB 4-3 COR 5-1 COR 10-1 COR 29-2 COR 50-1 COR 43-3 LOB	17-4 RES 47-5 RES	8-1 ENT 14-1 ENT 24-2 ENT 47-1 ENT 27-3 EXB 10-4 RES	35-1 ENT 47-2 ENT 48-1 ENT 17-3 LOB 8-2 COR 28-3 COR 36-3 COR 44-1 COR	35-3 RES	26-2 LOB 7-5 RES	36-3 COR	31-2 EXB 1-3 COR 22-4 COR 22-3 LOB 1-5 RES	11-1 ENT 17-1 ENT 25-1 ENT 28-2 LOB	29-1 ENT	24-4 LOB	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT	
正面+側面	b=d	カ	2-1 ENT 6-1 ENT 31-3 EXB 4-4 LOB 10-2 LOB 22-5 RES	19-1 LOB	48-2 EXB 28-4 LOB 32-5 LOB 32-5 RES 40-3 RES	21-4 RES	29-1 ENT	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT							
		キ	2-1 ENT 6-1 ENT 31-3 EXB 4-4 LOB 10-2 LOB 22-5 RES	19-1 LOB	48-2 EXB 28-4 LOB 32-5 LOB 32-5 RES 40-3 RES	21-4 RES	29-1 ENT	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT	27-1 ENT 37-5 EXB 20-5 LOB 33-2 RES 33-1 ENT 1-1 ENT 31-1 ENT							

連結空間の側面に設けられる場合が多い。X、XIは自然風景を見るものである、Xは縦長空間の側面に開口部が設けられた連結空間に多く現れるが、同一美術館内に滞留空間として重複設置されるものも多い。XIは複数のガラス面が連続的に設けられることで自然風景をパノラマのように見せるものである。

空間の用途別にみると、エントランス空間では類型I、III、IV、VIIIが多く見られ、I、IVは奥行のある内部空間の正面から外部空間を見ることで、風景とともに内部空間の構図が視野の多くを占める。III、VIIIは都市に立地する美術館のエントランスに多く、街と視覚的な連続性のある導入部となっている。廊下やロビーなどの連結空間はII、VI、IX、Xに多く見られる。レストランなどの滞留空間はVI、VII、XIに多く見られた。VI、VIIは木や水の静的な風景を正面から広く見せる開口部である。

5. 結 以上、美術館の開口部から見える風景を外部風景と内部空間の構図より類型化し、空間の用途との関係や風景の見え方を考察することで、美術館の開口部から見える風景の特徴が明らかになった。

\*注) 本研究では、「新建築」に1995年1月号から2005年6月号までに掲載された国内における新設の美術館建築のうち図面や写真から開口部の様子がわかる50作品を資料とし、外部の風景を目的とし、と考えられるトップライトや光壁を除き、平面図において一連のガラス面を含む空間を1場面とし、全資料から153場面を取り出している。